

日銀事務所長の あさひかわ経済 あれこれ No.39

新しいお札の発行と

お札に対する需要

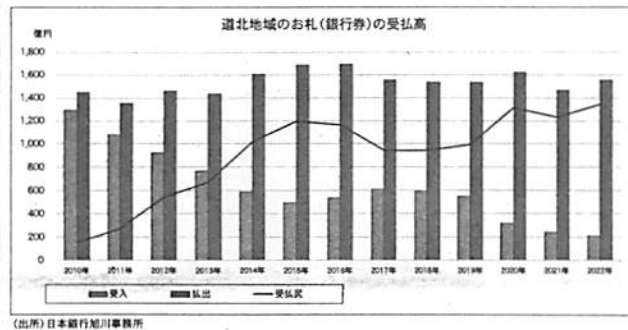
ところで、日本ではキャッシュレス化が進んでいるのに、なぜ新しいお札を発行するのか、疑問に思う方がいるかもしれませぬ。この点に関して、まず事実として指摘できるのは、お札の発行額は増え続けているという点です。キャッシュレス化が進化する下でもお札を使う人は多いほか、家庭でのタンス預金や非常時の備えなど、現金に対する需要は引き続きみられます。コロナ禍がそうでした。最新の技術を使ってお札を製造し、簡単に偽造されないようにする必要があります。

もう一つは、お札を作る技術の伝承です。お札の人物像は国立印刷局の工芸官の人

受入と払出の金額)をみると、2010年以降、払出超過が続いています。こうした状況の下で、新しいお札を発行する理由としては、次の2点が挙げられます。一つは、お札の偽造を防ぐためです。日本では偽札が世の中に出回ることはほとんどありませんが、偽造に使える機器や技術は昔に比べ格段に進歩しています。最新の技術を使ってお札を製造し、簡単に偽造されないようにする必要があります。

先日、日銀旭川事務所は、あさひかわデザインウィーク2023で旭川市経済部主催のイベント「お金のデザインを学ぼう!」セミナーと「お金のデザインパネル展」に協力しました。セミナーでは、2024年度上期に発行される新しいお札のデザインについて説明しました。セミナー後の1億円の重さ体験には、ほぼ全員の方が参加され、ご家族で写真撮影に興じられるなど、楽しんでいただけたように思います。

日銀との間で行うお札の



【天賀健司(おおかげんじ)】一九六五年神奈川県生まれ。青山学院大学法学部卒。業務局企画役、青森支店次長、政策委員会企画役、静岡支店次長を経て二〇二〇年に旭川事務所長に就任。

背景に新たに入れた大変細かい模様すかしで、3Dホログラムは、お札の角度を変えると沢沢栄一などの3Dの人物像が回転してみえます。ユニバーサルデザインは、どのお札であるかを誰にでもわかりやすくするデザインです。現在のデザインでも導入されていますが、よりわかりやすくする工夫を行っています。ホログラムとすかしの形や位置をお札の金額ごとに変えたり、額面金額の数字を大きくしたり、指で触ってどのお札なのかかわかる識別マークを入れていきます。キャッシュレス化が進化する下でもお札に対する需要がなくなることはないでしょう。災害など非常時の決済手段としての役割もあります。今後もキャッシュレスの支払手段との併存が続くとみられます。

現在、日本銀行では周知のためのPRも含め、新しいお札の発行に向けて準備を進めています。新しいお札のデザインは日銀のHP(https://www.boj.or.jp)でご覧いただけるほか、小樽の金融資料館では本物そっくりの見本を展示中です。新しいお札に関するご照会等がありましたら、お気軽に当事務所までお寄せください。(毎月第四週に掲載します)